

ボランティア保険ご案内

ボランティア活動保険

ボランティア活動中に、ボランティア自身がケガをした(傷害事故)、他人にケガをさせてしまった、他人の物を壊してしまった(賠償事故)などの事故を幅広く補償します。

保険プラン		Aプラン	Bプラン	Cプラン
基本プラン年間保険料		250円	300円	500円
天災プラン年間保険料(基本プラン年間保険料を含む)		400円	500円	800円

保険金の種類	補償概要(事故発生日から180日以内)	保険金額(補償の金額)		
		Aプラン	Bプラン	Cプラン
死亡保険金	死亡・後遺障害保険金額の全額をお支払いします。(注2)	620万円	840万円	1,230万円
後遺障害保険金	後遺障害の程度に応じて死亡・後遺障害保険金額の42~100%をお支払いします(注3)			
入院保険金(1日につき)	入院日数1日につき、入院保険金日額をお支払いします。			
通院保険金(1日につき)	通院日数1日につき(90日を限度として)通院保険金日額をお支払いします。(注4)			
手術保険金	入院中に受けた手術は入院保険金日額×10、入院中以外の手術は入院保険金日額×5の額をお支払いします。			
対人・対物共通 賠償責任 人格権侵害	第三者の身体または財物に損害を与え、または名誉毀損やプライバシーの侵害により法律上の損害賠償責任を負った場合に、お支払いします。	5億円(限度額)		

(注1) 傷害事故の保険金は、健康保険・生命保険・加害者からの賠償金などとは関係なくお支払いします。事故発生日を含めて180日以内の死亡・後遺障害・入院・通院・手術について保険金をお支払いします。

(注2) 既にお支払いした後遺障害保険金がある場合は、死亡・後遺障害保険金額から既にお支払いした金額を控除した残額をお支払いします。

(注3) 保険期間(保険のご契約期間)を通じ合算して死亡・後遺障害保険金額が限度となります。


(注4) 平常の生活またはお仕事に支障がない程度に治ったとき以降の通院に対しては、保険金をお支払いできません。

○ 特定感染症(1類、2類、3類-指定感染症新型コロナウイルス含む)により発病の日から180日以内に死亡した場合、葬祭費用として300万円を限度に葬祭費用の実額をお支払いします。

天災プランとは…

地震もしくは噴火、津波及びこれらにともなう生じた事故等の死亡・後遺障害・ケガも補償します。以下の特約が付帯され、補償内容がグレードアップしますのでおすすめです。

(天災危険補償特約・第三者加害行為等による傷害保険金倍額支払特約)



ボランティア行事用保険

社会福祉協議会及び民間のボランティア活動推進団体が主催者となって、ボランティア活動に関わる行事を行う際の、主催者および参加者のケガ(傷害事故)と、主催者が賠償責任を負った事故を補償します。 ※日帰り行事/宿泊行事保険料及び死亡補償改定

行事区分	日 帰				宿 泊					
	1日1名につき				1名につき					
	A行事*	B行事*	C行事*	現地集合型(A行事のみ)	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊7日
保険料	30円	128円	251円	30円	223円	273円	279円	331円	337円	343円

保険金の種類	補償概要(事故発生日から180日以内)	保険金額(補償の金額)
		死亡保険金
後遺障害保険金	後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害保険金額の4~100%をお支払いします。(注2)	330万円(限度額)
入院保険金(1日につき)	入院日数1日につき、入院保険金日額をお支払いします。	3,300円
手術保険金	入院中に受けた手術は入院保険金日額×10、入院中以外の手術は入院保険金日額×5の額をお支払いします。	
通院保険金(1日につき)	通院日数1日につき(90日を限度として)通院保険金日額をお支払いします。	2,200円
賠償責任	対人 1名1事故 第三者の身体・生命を害し法律上の損害賠償責任を負った場合に、保険金をお支払いします。(多数の第三者に事故が発生した場合は、1事故を適用します。)(注3)	2億円(限度額)
	対物 1事故 第三者の財物に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負った場合に、保険金をお支払いします。(注3)	1,000万円(限度額)

・「ケガ」とは急激かつ偶然な外来の事故によって身体に被った傷害をいいます。なお傷害には細菌性・ウイルス性食中毒を含みます。

・日帰り行事ABCにおいて、事故発生日に名簿または参加証明書を提出できない場合は、保険金が支払われない場合があります。

※ A-B-Cの行事区分は内容により異なります。

(注1) 傷害補償の保険金は、健康保険・労災保険・生命保険・加害者からの賠償金などとは関係なくお支払いします。事故発生日を含めて180日以内の死亡・後遺障害・入院・通院・手術について保険金をお支払いします。

(注2) 保険期間を通じ合算して死亡・後遺障害保険金額が限度となります。

(注3) 免責金額(自己負担額)は対人・対物事故ともにゼロとします。

● 社会福祉法人向け役員賠償責任保険及び福祉ふれあい活動総合補償等の「福祉に関する保険」も取り扱っております。詳しくは愛知県社会福祉協議会ホームページ「福祉の保険」をご覧ください。

※お申し込み、ご照会は下記の市区町村社会福祉協議会まで

〒461-0011 名古屋市東区白壁1丁目50番地
愛知県社会福祉協議会 総務部 TEL 052-212-5500 FAX 052-212-5501

取扱代理店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-2-31 ニュープラスビル7階
株式会社ニュータス(愛知県社会福祉協議会 指定代理店) TEL 0120-258-517 FAX 052-204-8988

令和3年度

「子どもの居場所づくり応援事業」

実施報告書 (子ども食堂取組事例集)



もくじ



はじめに 1

▶ 子ども食堂の取組事例集

1. 岡崎市社会福祉協議会 2
2. 半田市社会福祉協議会 4
3. 日進市社会福祉協議会「にこさぽ」 6
4. フードバンク愛知（北名古屋市） 8
5. とまと食堂（東海市） 10
6. こども食堂「ほっとライス」（刈谷市） 12
7. サンサン子ども食堂“なかよし”（名古屋市） 14

▶ 「子どもの居場所づくり応援事業」実施報告書 16

参考資料

子どもの居場所づくり推進会議要領・子どもの居場所づくり推進会議委員名簿 22



はじめに

昨年度に引き続き、今年度もこうして「子どもの居場所づくり応援事業」報告書をまとめることができました。

事業の中核となる「子どもの居場所づくり推進会議」は、新型コロナウイルス感染症の影響のなかで、構成員が例年以上に多忙なか、7月・1月の両会議はもとより、県内3地区（尾張・知多・三河）における検討部会および研修会を10～11月にかけて今年度も行うことができました。

新型コロナ禍における子ども食堂の取組がやや定着してきました。もちろん中止を余儀なくされているところも依然としてありますが、多くはお弁当を調理・配布したり、「フードパントリー」として食材等を無償提供したり、子ども食堂を「復活」したりしています。こうした活動を応援する市町村社協も「フードバンク」や「フードドライブ」を実施、また活動団体のネットワークをつくりながら、活動継続はもとより新規開設も支えています。さらに、企業からの寄付やサポートも県内各地で増えました。奇しくも新型コロナ禍で「子どもの貧困」が可視化したことの結果と受け止めています。

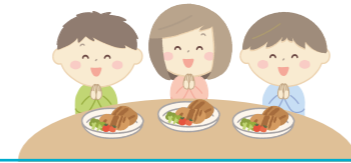
会議では、こうした県内各地域の子ども食堂を応援すべく、「子どもの居場所応援プラザ」を中核に「寄付食材等配送システム」の構築をめざして議論を続けてきました。その結果、県内のNPOや市町村社協を「地域拠点」と位置づけ、これを「あいち子ども食堂応援ステーション」と名付けた仕組みをスタートすることになりました。

新型コロナ禍において、子ども食堂はますます期待される場所です。本報告書の事例も創造性に富んでいます。これから地域で子ども食堂を広げていくために、本報告書が「子ども食堂」を運営される方、「子ども食堂」の活動を支える方、そしてこれから「子ども食堂」を立ち上げる方の一助として、ご活用いただければ幸いです。

令和4年3月

子どもの居場所づくり推進会議
委員長 中村 強 士

岡崎市社会福祉協議会



●設立年月日

- ・岡崎市内初の子ども食堂 2016年7月
- ・おかざき子ども食堂・みんなの食堂連絡協議会“わーく” 2019年11月29日

●子ども食堂活動数

市内14か所

●連絡先

社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
総務課事業係
TEL: 0564-47-7955

社協の取り組み ～伴走支援のはじまり～

2017年10月、本会主催で実施した市民向けの福祉講演会で「子どもの貧困・子ども食堂」をテーマに取り上げました。その日に出会った地域の方々と一緒に考え学びながら、子ども食堂の立ち上げを見届け、現在に至るまで、地域住民と一緒に走ってきています。2020年度からは、岡崎市における子ども食堂支援事業を受託し、立ち上げ支援・運営継続支援・ネットワークの構築など、地域住民主体の子ども食堂に伴走しています。

社協の取り組み ～具体的なつながり・支援～

子ども食堂を始めるために、また継続していくために必要になる「ヒト・モノ・カネ・情報」について、本会での取組をご紹介します。

①勉強会の実施

子ども食堂について広く市民に知っていただくために、定期的に勉強会を実施しています。子ども食堂に興味関心のある市民が増え、一緒に活動する仲間とつながりを築くことができます。



大学のゼミで、子ども食堂の講話



②立ち上げ相談支援

新規立ち上げ前に必要な準備について、情報提供しています。新規設立に対する思いもじっくり聞き、思い



Zoomを活用した子ども食堂勉強会

をカタチにできるよう、一緒に考えさせていただきます。

③地域への働きかけ

子ども食堂を継続するために、地域の理解は必要不可欠です。新規で子ども食堂を立ち上げる時は、総代会(自治会)・民生委員児童委員協議会・学区福祉委員会・小学校などに説明、情報提供をしています。また、市内の大学で講話をさせていただくこともあり、若者の参画にもつなげています。

④広報啓発

市内の子ども食堂一覧表を作成し、随時更新しています。また、広報誌やホームページなどの活用や報道機関への情報提供などにより、市内の子ども食堂について発信しています。一般市民の目に留まり、ボランティア希望や、野菜や調理器具、資金のご寄付についてご相談いただくことが増えています。

⑤企業への説明

社会貢献活動の一環として、子ども食堂へのご寄付をいただけるよう、様々な企業とつながりを作っています。企業が集まる場所での講話や、子ども食堂実践者



道の駅藤川からの野菜のご寄付



企業からのご寄付



株式会社ドミーからのご寄付

も交えた情報交換会を実施するなど、子ども食堂の抱える課題を直接お伝えし、そのニーズに応じた取組につなげていただけるよう、働きかけています。市内のたくさんの企業や団体などから、食材や物品、資金のご支援をいただいています。

⑥子ども食堂への情報提供、ヒト・モノ・カネのコーディネート

本会は子ども食堂の中間支援として、寄付物品情報や助成金情報などを一斉メールやLINEを使って情報発信しています。また地域(個人、農家、団体、企業など)からいただくご寄付(ヒト・モノ・カネ)について、子ども食堂のニーズに合わせたコーディネートをしています。

社協と子ども食堂 ～地域との具体的な連携～

子ども食堂を継続していくためには、開催地域(小学校区)との連携は欠かせません。地域の理解・協力・支えがあってこそ、地域に根付いた子ども食堂であり続ける事ができます。

目指すのは小学校区内での連携。同じ学区の中で、企業も地域の一員として支え合う・協力し合うために、本会としては学区内でのコーディネートを中心にしています。野菜がたくさんとれたよ、と申し出があれば、その方がお住まいの学区付近の子ども食堂に声を掛けます。企業からの申し出も同様です。地域内で顔見知りになる、つながる。子ども食堂だけでなく、地域が強くなるポイントだと思います。

社協と子ども食堂 ～ネットワークの構築～

市内の子ども食堂同士がつながり、情報共有していくため、「おかざき子ども食堂・みんなの食堂連絡協議会“わーく”」が設立されています。定期的に集まっての情報交換、寄附物品の配分など、ネットワークがある

からこそその強みを生かした活動をしています。

また、行政も交えた意見交換会も実施しました。市内に子ども食堂が広がるように、現状の課題や行政への要望など、生の声をお届けする貴重な機会となりました。

社協と子ども食堂 ～今後の展望～

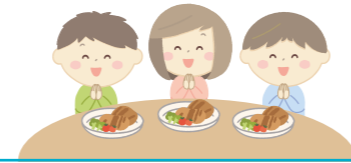
子ども食堂を継続している中で実践者は、子ども食堂が地域のみなの居場所となればなるほど、本当に困っている子どもや世帯にも支援や思いは届いているだろうか…そんなジレンマを抱えています。支援が必要な世帯にもこの活動が届くよう、行政の協力も得ながら、子ども食堂の取組を支えていきます。

現在、和洋女子大学(千葉県)・岡崎女子大学(岡崎市)・中部大学(春日井市)・本会で「日本と韓国の食支援を通した子ども支援について」の共同研究に取り組んでいます。韓国では、子ども食堂のような居場所が公的サービスになっています。ボランティア主体で取り組む日本の子ども食堂は、今後どう歩いていくのか、韓国の事例から学び、子ども食堂の未来を考えていきたいと思っています。



日韓情報交換

半田市社会福祉協議会



●子ども食堂活動数

6か所

●目的

地域の子どもは地域で育てることを目的とした、子どもやその世帯にとっての居場所、地域とのつながりづくりや見守りの場。

●活動方法

会食、フードパントリー、学習支援等

●連絡先

社会福祉法人半田市社会福祉協議会
ボランティア地域ささえあいセンター
TEL: 0569-25-0002

地域主体の子ども食堂

半田市内には、6か所の子ども食堂があります。「気になる子どもがいる」「子どもたちの居場所を作りたい」そんな思いを持った地域住民が主体となって子ども食堂を立ち上げ運営しています。その活動は子ども食堂だけでなく学習支援等にも広がっており、よりいっそう子どもたちの居場所としての役割を果たしています。また、子ども食堂は、子どもや親がつながる場、運営するボランティアにとっての交流や生きがいの場にもなっています。

半田市の子ども食堂の特徴のひとつとして、各子ども食堂の運営者同士が自主的にネットワークを構築しています。日頃からSNS等を用いて、互いの活動状況や課題、活用できる仕組み等の情報を共有し、よりよい活動ができるように協力し合っています。

子ども食堂が地域住民主体で運営されることにより、身近な地域で互いに顔の見える関係となり、子どもやその世帯に対して日頃からの見守りが継続的にできる場にもなっています。



お弁当を受け取る地域の子ども

安心できる継続的な運営に向けて

子ども食堂は、半田市社会福祉協議会と地域をつなぐ大切な窓口です。

日ごろから各子ども食堂とコミュニケーションを図り、「困ったときは社協に相談」と言ってもらえるような関係を築くことが大切だと考えています。それが、「気になる子どもや世帯の発見」や「地域課題の掘り起こし」につながります。

また、地域のみなさまにご協力いただきながら、資金面や物資面で支援をすることで、安心して子ども食堂を運営し続けられる体制づくりに取り組んでいます。

今後、新型コロナウイルス感染状況はじめさまざまな世情により、地域の課題は変化していきます。それに伴い、子ども食堂の活動形態また運営に関するニーズも変わってきます。半田市社会福祉協議会ではボランティアと連携しながら「今、どんな子ども食堂が求められるか」「そのためにはどんな支援が必要か」を一緒に考え、地域に寄り添った子ども食堂の活動が継続されるよう努めていきます。

地域みんなで子どもの育ちを応援

半田市社会福祉協議会では、令和元年度より食品ロスの削減と子ども食堂支援を目的としたフードドライブを始めました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、食に対する困りごとが増えたことや休校が続いたことで、地域住民の中でも「食の支援」や「子ども食堂支援」の意識が高まり、多くの食品をお持ちいただくようになりました。また、地域の企業にも取組を知っていただき、食品を継続的にご寄付いただく関係性を築くことが出来てきています。

地域のみなさまから食品をご寄付いただく中で、安定した食の支援を継続していくため、より多くの食品を備



ご寄付いただいた食品を子ども食堂へ

蓄できるよう、市内での「フードバンク」の立ち上げに向け取組を始めました。

地域のみなさまに食の支援の必要性を知ってもらうとともにフードバンクの立ち上げとその仕組みづくりに向けた資金を確保するため、令和2年度に「テーマ型募金」を実施しました。社協の広報紙や地方紙の記事を見た地域住民やから、「自分たちのできること」として多くのご寄付をいただきました。

令和4年1月、市内にフードバンクを設置することができました。これまでは半田市社会福祉協議会の事務所で保管していたためできなかった大型の冷凍冷蔵庫の設置が可能となり、受入れ・お渡ししが難しかった食品が保管でき、食の支援の幅を広げることができます。

さらに、食の支援をもっと多くの方に知ってもらいた



食品を保管する倉庫(フードバンク)

いという想いから、令和3年度にマスコットキャラクターを募集しました。応募総数80作品の中から地域のみなさまの投票で決定した「はんだむすびん」を仲間として迎え、今後も食の支援の活動や必要性を一緒に伝えていきます。

募集期間や一般投票の期間を通して、地域のみなさまと「どんなところに支援しているの?」「どんな食品がいいの?」等、食の支援の活動についてお話することができました。



地域のみなさまによる一般投票の様子

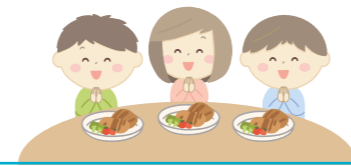
また、「子どもたちのために使ってほしい」と、寄付金をいただくことが多くなりました。その思いを形にするため、令和3年度に「子ども支援基金」を創設しました。地域のみなさまからお預かりした寄付金は、子ども食堂や学習支援活動の支援、また学用品バンクやフードバンクの運営費としての活用を予定しています。



はんだむすびん

未来を担う子どもたちが、元気に安心して暮らし続けることができるよう、半田市社会福祉協議会はこれからも地域のみなさまとともに考えていきます。

日進市社会福祉協議会「にこさぼ」



- 設立年月日
「にこさぼ」 2017年9月
- 子ども食堂活動数 1か所

- 連絡先
社会福祉法人日進市社会福祉協議会
TEL: 0561-73-4885 (代表)

中間支援ネットワーク「にこさぼ」の発足

子ども食堂や子どもの支援に関わる団体等が有志で集まり、社会福祉協議会が事務局、愛知県立大学の野田先生を座長に、2017年「(に)っしんで(こ)どもの(サ)ポートをかんがえる会」(通称:にこさぼ)を発足。「食」と「学び」をテーマに、子ども達が直面している課題の検証や改善策についての検討を開始しました。

支援者が繋がり、地域のネットワークに

月1回の定例会、2017年、2018年にはシンポジウムやワークショップ、各種講座を隔月開催しました。2019年には「日進市子ども・子育て支援事業計画」に対する提言書の作成と報告会、2020年には企業と福祉の連携のためのCSV勉強会を開催しました。企業を含めた支援者同士の繋がりによって、地域課題の抽出や支援ネットワークの基盤が出来ました。



「日進市子ども・子育て支援事業計画」に対する提言書の作成と報告会



CSV勉強会(企業と福祉連携)



食育の勉強会



収穫祭の様子

コロナ禍でも、にこさぼメンバーは活躍

コロナの影響で「にこさぼ」定例会などは活動休止状態に…でも、にこさぼメンバーはそれぞれに新たな活動を開始。「日進絆子ども食堂」は、2020年3月にはフードパントリーへ転換し、月1回30家族へ90食の提供を行いました。また、フードパントリーでの安定的な食材提供のため、ファミリーマート日進三本木店の協力を得て、2021年12月6日に開所式を開催し、フードドライブの受付窓口をコンビニ店舗内に常設しました。クラウドファンディングにも挑戦し、目標100万円のところ、予想を上回る130万円の寄付が集まり、夏休みにコンビニでお弁当に引き換えできる弁当券(協力4店舗での外食も可能)を児童扶養手当受給345世帯に送付し、クリスマスには、18歳以下の子どもがいる生活保護世帯へクリスマスケーキとチキン、お餅や観劇の招待券も配

布されました。子ども食堂開設準備中だった「星のたね食堂」は、市の補助金を利用して、夏休みに学童保育所で手作り弁当の配布を、「ワンズパス」は、制服や学用品のゆずりあいプロジェクトを定期開催し、開催時にさりげなく食糧支援も実施されています。



フードパントリーの様子



フードパントリーでお渡しする食材



ファミマ店舗内のフードドライブ窓口



クリスマスケーキとチキンの配布



クラウドファンディング新聞掲載記事

餃子の王将のお子様弁当無料配布では

「日進絆子ども食堂」での50食の配布だけでなく、にこさぼメンバーである「NPO法人ファミリーステーションRin」「ワンズパス」「星のたね食堂」「NPO法人リビングサポートあいの家」が公共施設等を利用し9日間、200食の配布に協力して下さい、「一般社団法人みらい学びクリエイト」は学習支援利用の子ども達へ44食、合計294食を配布して頂きました。

社会福祉協議会の取組と連携について

社会福祉協議会は実働部隊とはならず、民間団体の取組をバックアップし、市の協力を得られるよう、後方支援を行っています。例えば、弁当券の配布時には、「児童扶養手当更新のお知らせ」に弁当券も一緒に封入して頂くよう、子育て支援課に依頼し、協力を頂きました。クリスマスケーキとチキン等の配布時には、生活保護担当者に、希望の聴取や配達時間の確認を依頼し、協力を頂きました。

餃子の王将のお子様弁当無料配布時には、福祉会館や子育て総合支援センターなど市が管理する公共施設を優先的に利用できるよう協力頂きました。また、市と協働で年2回フードドライブを開催し、子ども食堂等への食材提供を実施し、助成金申請時には推薦文の記載などもしています。



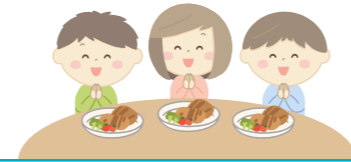
社協と市役所環境課主催のフードドライブで集まった食材

今後について

日進絆子ども食堂が中心となり、宅食の仕組みづくりや食を介在した地域の相談支援の体制づくりについての検討を予定しています。

特定非営利活動法人 フードバンク愛知

北名古屋市



- 設立年月日
令和元年6月
- 活動場所
北名古屋市高田寺砂場18
- スタッフ人数
17名

- 活動目的
子ども支援(子ども食堂、ひとり親家庭、学生など)
フードロス削減
- 活動日時
月曜日～金曜日 9:00～17:00
- 連絡先
特定非営利活動法人 フードバンク愛知
TEL: 0568-65-6650

活動のきっかけ

フードバンク愛知は母体の物流会社を定年退職した方が社会貢献活動を行う場として設立をしました。当初フードロス削減に向け物流会社のトラックを活用し活動していましたが、昨今の新型コロナウイルスの影響で食に困っているお子さんや、ひとり親家庭、学生など若い方を積極的に支援しています。

子ども食堂との取り組み

東海3件の子ども食堂約200の団体さんに登録をしていただき食品の提供を行っています。

フードバンク愛知は東海3県を対象としており、当団体がある北名古屋市まで引き取りに来られる子ども食堂さんにはかなりの負担でした。

そこでフードバンク愛知は東海3県に(デポ)中継地点設け、近隣の子ども食堂さんが近くで食品を引き取るネットワーク作りをしました。

デポ(拠点)作りをしても北名古屋市のフードバンク愛知には100近い団体さんが食品を取りに来ます。顔と顔を合わせて会話が出来る為、スタッフとしっかりとしたコミュニケーション作りが出来ているのが当団体の強みです。



児童館への支援

行政との関係

愛知県、愛知県社会福祉協議会、地域の社会福祉協議会、民間企業の有識者で協議をする「子どもの居場所推進議会」の委員となり子どもの居場所作りのための具体的方策について検討しています。

北名古屋市役所と連携をし、北名古屋市役所、北名古屋市の3つの子ども食堂さんと共に月に1度ひとり親家庭支援を行うための食品提供を行っています。

スタッフ

フードバンク愛知のスタッフには、食品集め、広報、渉外、事務、SNS発信、作業、取材、システム、配送といったそれぞれの分野に担当があり、また横のつながりもスムーズであり素早い対応と細やかな連携が来ています。

食品集め

食品集めにはかなり苦勞をしています。寄付文化がなかなか浸透しづらい土地柄でありご理解をいただくまで長い時間をかけました。当初はフードロスが主流でありましたが、活動を進めるにあたって寄付を行いたいとの企業さんが増え、子ども支援という事でフードロスではない食品や新商品を寄付していただいています。

大手食品企業、外資系企業、大手コンビニエンススト

ア、スーパー、近所の食品企業など数多くの企業さんに信頼をおいていただき活動が継続出来ています。

お米、パン、飲料、お菓子、野菜、お肉、調味料など様々な種類の食品が集まりましたがまだまだ足りないのが現状です。

また全国にある15のフードバンクと提携し情報交換や食品の融通を行い、食品が偏らないように調整も行っていきます。

最近ではこの活動を知って、近所の方が畑で栽培しているさつまいもや大根、レタスなど採れたての状態でお野菜を持ち込んでいただいています。

その他食品ではなく除菌グッズ、マスク、タオルなど日用品の寄付もあります。

食で困窮している方にとっては日用品の入手は困難なケースが大半です。食品と共にお渡し出来る様積極的にこの課題にも取り組んでいます。

留学生支援

この数年でたくさん子ども食堂が誕生しました。その数だけお子さんの笑顔も増えましたがコロナ禍で本当に困窮しているお子さんや大学生の方がたくさんいます。留学生の方もアルバイトも少なくなり大学を通じて支援を求められているのが現状です。

子ども食堂さんにも留学生支援をお願いをし、食堂開催日に近くにお住いの留学生さんが食品を取りに向かうといった新たな取り組みを始めています。協力していただいている子ども食堂さんには本当に感謝しています。

その他、月に2回、栄のナディアパークにて大学生が



モンゴル支援



出張パントリー



hand in hand活動

食に困っている大学生(留学生含む)向けに食品をお渡ししているhand in handにも食品の提供をしています。

今後について

特定の地域で集まった食材はこの地域で配布(支援)するといった地産地消の活動を広めています。これまでの活動で広範囲の子ども食堂さんや社協さんとの繋がりが出来ました。地域の食品企業、地域のお店、地域の農家で提供いただける食品はその地域の子ども食堂さんや社協さんを紹介し、地域共生社会を後押ししていく様にしたいと考えております。

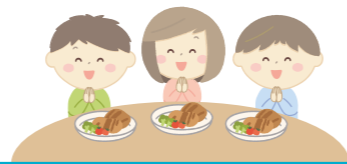
移動距離も少なくCO2削減にもなり僅かではありますが環境問題の取り組みにもなります。

地域共生社会の実現に向けて日々スタッフ一同頑張りますので宜しくお願いいたします。



箱詰め作業

とまと食堂 | 東海市



- 設立年月日**
2019年6月
- 活動場所**
清水自治会公民館
とまとのおうち(富木島町の一軒家)
- スタッフ人数**
約20人
- 開催日時**
清水自治会公民館 第4日曜日 / とまとのおうち 毎週水曜日
- 参加費**
清水自治会公民館 現在コロナ禍の為お弁当配布
大人300円 子供100円
とまとのおうち カフェタイム 100円
夕ご飯 大人300円 子供100円
- 連絡先**
とまと食堂 代表 深谷美子 TEL:090-5007-8539

活動のきっかけ

核家族化、共働き世帯やひとり親世帯の増加に伴い、子どもの孤食が増えています。地域においては独居老人が増えシニア世帯の孤食もまた増加傾向です。シニア世代と子ども達が共有する環境が無い為、世代間交流が減少しています。さらに「経済格差」による「教育の格差」が原因で「貧困の連鎖」が発生し社会問題になっています。地域の子供達や高齢の方々の居場所作りとともに、異世代交流のきっかけ作り、子ども達の学習支援、そんな「居場所」を作りたい…この様な思いからスタートしました。



食材の確保

賛助会費、参加者の会費から購入の他に、地域の方からの食材寄付、農家さんから廃棄野菜を譲り受けたり、自分達で畑を借りて野菜を育てることも始めました。こちらは、収穫体験や調理体験なども行い、食に興味を持ってもらったり自然に触れ合うことの楽しさを伝えることができたのではないかと思います。今後もできる範囲で続けていけたらと思っています。



野菜の植え付け

運営費の確保

企業、個人の賛助会員からの会費や、地域企業、個人の方の寄付によって運営しています。その他参加費収入などがあります。とまと食堂新聞の発行や民間助成金も活用しています。安定した運営費確保の為に、私たちの活動を多くの方に知ってもらうことが大切です。InstagramやFacebookなどSNSを活用して発信しています。

ボランティアの確保

東海市初の子ども食堂開設ということで、賛同してくれた地域の仲間やSNSを通じて知り合った人達を中心に運営しています。地域のお年寄りや、学生さんも協力してくれとても助かっています。今後も継続していくために、ボランティアの確保は重要です。

子ども食堂開設

東海市清水自治会のご好意により清水公民館において、東海市の子どもとおとなの食堂として開設しました。スタートしたころは、ボランティアと高齢者、子ども達が一緒に調理、一緒に食事をしていました。調理、配膳や

会場準備、片付けも班分けして、みんなで協力して行いました。食事の後は、食育やワークショップなど様々なイベントを行いました。

現在はコロナ禍ということもあり、市内の飲食店のお弁当やボランティアが作ったお弁当、食材を配布しています。やはりコロナ前より衛生面には気をつけて備品を揃えたり、密にならない工夫や短時間でやるなどしています。コロナ禍で色々なイベントが中止になっている中、夏祭りを行った時は、夏休みの思い出が何もなかったので子どもがとても喜びました! という声をいただき嬉しかったです。



ミニ夏祭り

今まで行ったイベント

毎月1回のとまと食堂では、コロナ禍前は夏に竹を山から伐採してきて、流しそうめんをし、その後にはその



夏休みの昼食



流しそうめん大会



コロナ禍でのお弁当配布

竹で竹馬を作って遊んだりもしました。ふだんなかなかできない体験に子ども達の目がキラキラしていました。大人も張り切ってそれぞれの得意なことを発揮する場になっていました。最近では不要な物を寄付してもらい、無料のフリーマーケットを開催したり、全国の子供食堂とオンラインで繋がってけん玉をするイベントなどを行いました。これらのイベントを楽しみにしてくれている方も多く、最近では予約がすぐに埋まってしまう事が多いです。

とまとのおうちオープン

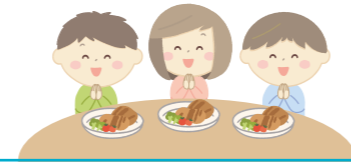
2021年6月～富木島町にみんなの居場所づくり「とまとのおうち」を常設しました。現在は毎週水曜が活動日です。カフェタイム、夜はごはんの提供をしています。

カフェタイムは地域の高齢者、小さなお子さんとママ達の集いの場所となりつつあります。夜のごはんは小、中、高校生や親子連れで参加し、交流の場所にもなっています。ボランティアや地域の高齢者が協力して、買い出しや食事作り、掃除、庭の手入れなどを行っています。

今後について

東海市からの助成を受けて、とまとのおうちにて要支援対象児童への食事提供、宅配弁当、子どもの学習支援なども行っていく予定です。今後も地域の方が安心して利用できる居場所作りをしていきたいと思っています。

こども食堂「ほっとライス」 | 刈谷市



- 設立年月日
2018年10月27日(第1回の会を開催)
- 活動場所
桜市民館(刈谷市神明町)
隣接する御霊神社の境内 等
- スタッフ人数 20名程度

- 開催日時
月1回 毎月第4土曜日 11:00~14:00
(コロナ禍の現在は11:00~12:00)
- 参加費 子ども100円 大人300円
- 連絡先
子ども食堂「ほっとライス」代表 竹上富彦
TEL: 0566-28-0500(NPO法人西三河在宅介護センター内)

活動のきっかけ

2014年5月から活動している「刈谷子育て応援団」を母体に、リーマンショック以降の景気変動の影響で子ども食堂が増えているという話に、当時刈谷にはまだなかった子ども食堂を開こうという三浦清の想いをメンバーが形にし、2018年5月から半年の準備期間を経て10月の開催につなげた。

場所の確保

会場となる場所については、人の集まりやすいところをということで、市中心部にある市民館の借用を申し込み。

スタッフは当初からのメンバーに加え、各々友人、知人に声を掛け、子ども食堂ボランティアスタッフとして参加していただいています。

運営費の確保

開設にあたって三浦が提供した基金をベースに、子ども食堂に賛同してくださった個人、企業からの寄付に加え、月々の参加費で運営してきました。20年度以降は共同募金会や企業・支援団体の助成金を申請、助成を受けています。

参加者の募集

地域の回覧板への折り込み、HP、FB等SNSでの告知に加え、地域の新聞販売店のご支援で新聞折込のチラシに開催案内を掲載していただいています。

活動内容

①コロナ禍の今は近隣の飲食店のご協力によるお弁当が多くなっていますが、会の特徴の一つであるイベント事はできるだけ



初期の食事



マジック



カリヤーズの演奏

取り込んでいます。コロナ禍でそろっての食事が出来なくなるまでは、季節の物を彩りよく食べてほしいとスタッフ手作りの心のこもった昼食を提供。食事ができるまでゲームをしたり、時節に合わせた工作(凧作り、ハロウィンマントづくり等)、また食事の後にはお琴、バイオリン、二胡、ミニハーブ等いろいろな楽器での演奏を聞き、その後は可能な範囲で楽器に触れさせていただいたり、目の前で演じられる玄人はだしのマジック等、できるだけ本物を、自分の手でという会の想いを伝えようとしています。

②20年5月からはお越しになれないご家庭向けに、食糧支援を開始。支援要請があると、お米やレトルト食品などの詰め合わせを玄関先までお届けしています。当初は月に5件程度でしたが現在は月30件程度まで増えています。



③21年春からは「ほっとライスファーム」と名付けた畑で農作業。初年度はスタッフが育てた野菜類をほっとライス会場で提供、希望者に持って帰っていただいています。



すが22年からは子どもたちと一緒に種まき、草取り、収穫というサイクルを、春のジャガイモをスタートにさつまいも、大根、玉ねぎ等に挑戦する予定です。

④さらに6年間大事に使われ思いのこもったランドセルをお預かり、ご希望の方にお届けするというランドセルプロジェクトも進んでいます。今までに約100個のランドセルが新しい持ち主に貰われていきました。



⑤21年春からは支援団体からエンドユーザーである各子ども食堂への食材等の中継・配布基地としての活動も始めています。

コロナ禍で気を付けたこと

大勢の人が集まることになるので3密対策を徹底すること。

特にお弁当を配布するようになった後はまずスタッフ他関係者が体調に異常のないことを確認、記録。来場者については原則予約制をとり、少数で引き取りに来ていただくようにしたこと、また受付前に検温していただきその記録を残していること。手指消毒用の薬剤はもちろんマスク等予備を準備、いつでも使えるようにしていることなどがあげられます。

コロナ禍で気付いたこと

「困っている」と声を上げない、上げられないご家族が多いということ、またそういう状況にある家族がいることは分かっても連絡が取れないことが多いです。何かの時はあなたに寄り添う「ほっとライス」がありま



企業さんからの支援



コロナ禍一段落時の手作りお昼



す。その活動をもっと知ってもらおう取組が必要と感じています。

団体の特徴

スタッフの年齢、職業は様々ですが活動にあたってのフットワークの良ささとまとまりが良いこと。こうしたメンバーにより、子どもたちに食事を提供するだけでなく、いろいろなことが体験できる場、多世代にわたる交流の場を提供していると自負しています。

アピールポイント

食事の提供に合わせイベント、ゲーム・工作など自分たちの手でということを大事にし、種々の体験もできるような場を提供、例えば野菜づくり等を通して食育活動をしたりと幅広い分野に亘ります。

活動で大切にしていること

こどもファーストであることは言うまでもありませんが地域の一員として多世代にわたる交流ができる場の提供、お困りのご家庭への見守りを含めた支援を単発ではなく継続して行うこと。活動にあたっては上から目線にならないように注意しています。

今後に向けて

現在は中心部での活動が主ですが、南北に長い刈谷市全域をカバーできるような仲間づくり、協力・支援してくださる企業、個人への周知により、活動を滞りなく継続できるよう基盤を固めることが必要であり、大事なことだと思っています。

●イベント

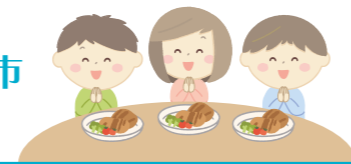


ポケモングッズ提供



3周年記念会場

サンサン子ども食堂“なかよし” | 名古屋市



- 設立年月日
2018年7月9日
- 活動場所
ジョイフル砂田橋1階食堂
- スタッフ人数
3人 ボランティア8名前後
- 開催日時
毎月第2水曜日 16:30~19:00
- 参加費
従来は100円を徴収していたが、フードパントリー開始後は無料
- 連絡先
社会福祉法人サン・ビジョン 社会貢献事業推進室 横井貴史
TEL: 052-856-3311

活動のきっかけ

「地域における公益的な取組」を行う責務が課せられている社会福祉法人として何かできることはないかと考えました。幸いにも高齢者施設には調理できる環境と食事できる場所があります。それを活用すれば子ども食堂ができるかもと考え、始めました。



開始後は

社会福祉協議会と連携し、近隣の小学校を中心にチラシを配布。参加する人数にムラはありますが、毎月約20名の子どもが参加し地域に定着していると感じられるようになりました。

コロナ禍が始まってから

子ども食堂を開設にあたり、「居場所づくり」「孤食の防止」「学習支援」を目的としていました。しかし、コロナ禍が始まり、当初の目的を果たすことができない、感染防止のため2020年2月から一時中止を選択せざるを得ない状況となりました。

このままでいいのだろうか？

「サンサン子ども食堂“なかよし”」は当初にも書きましたが、社会福祉法人が運営している子ども食堂です。運営する部署の職員は子ども食堂専従で仕事をしているわけではなく、「生活困窮支援」も行っています。(良かったら、「サン・ビジョン 社会貢献」で検索してください。詳細が記載されています。)生活困窮者支援を行う中で、コロナ禍で困窮する家庭が本当に増えていることを肌で実感しています。仕事が減り子どもの食費がままならないシングルマザー、コロナを理由に解雇され子どもの学費、給食費が払えない外国籍の方等が多くいらっしゃいました。それが現実でした。



協力いただくボランティアさん

「このまま子ども食堂を再開しなくていいのか？もしかしたら子ども食堂での食事がライフラインになっている子どももいるのではないか？」そう思い、再開を決断しました。

フードパントリー

2020年5月から食堂内での飲食を中止し、フードパントリーに切り替えました。何を配布するか迷いましたが、ボランティアが集まって調理することも密になるのではないかと考え、レトルト食品を中心に配布を行うこととしました。パントリーは居場所の機能を果たせないデメリットがありますが、メリットもあります。それは「参加しやすさ」。事実、フードパントリーを始めてからは参加者が右肩上がりが増えていっています。十分に子ど

もと話をすることはできませんが、困窮している子どもが他人の目を気にすることなく気軽に食料を受け取りに来ることができます。



フードパントリーの様子

コロナ禍のなかで

緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令されている際はフードパントリーのみとしていますが、宣言や措置が発令されていない際は一定の人数以下での食堂内の飲食かテイクアウトを選べる形で開催しています。飲食業界と同じやり方ですので子どもや親も慣れており、大きなトラブルなく運営できています。



から揚げの寄付をいただきました



ポケモン子ども食堂応援隊からいただきました

最後に

地域住民や関係機関の寄付を本当にたくさんいただいています。とてもありがたいことです。子どもだけでなくその親御さんも大変喜んでいただいています。その姿を見ると私たちも笑顔になります。これは有名な近江商人の経営哲学のひとつとして「三方よし」(売り手によし、買い手によし、世間によし)と同じかそれ以上だと気づきました。

子どもによし、親によし、寄付している企業・人によし、子ども食堂運営者によしの「四方よし」ではないでしょうか？

今後もコロナに負けず活動を続けていきたいと思えます。

から揚げ弁当です



令和3年度「子どもの居場所づくり応援事業」実施報告書

1 子どもの居場所づくり応援事業について

愛知県社会福祉協議会では、令和元年度から、愛知県の補助事業として、「子どもの居場所づくり応援事業」を実施し、3年目となりました。

子ども食堂は、全国に広がっており、NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえの2021(令和3)年12月調査発表によると、子ども食堂は、コロナ禍においても増加し、全国に少なくとも6,007か所あり、昨年より1,047か所、割合として17.4%増えました。

愛知県においても、子ども食堂(愛知県調査)は、平成29年には56か所だったのが、2019(令和元)年は140か所、2020(令和2)年は175か所、2021(令和3)年度は224か所と年々増えており、各地域で取組が広がっています。

2 事業の内容

(1) 「子どもの居場所づくり推進会議」の運営、検討部会の開催

事業の中核となるのが、「子どもの居場所づくり推進会議」(以下、推進会議)です。

推進会議において、子ども食堂の置かれている現状と課題について協議した結果、①資金と食材の確保、②地域との連携、③場所の確保、④人材の確保、⑤リスク管理の5つの課題が挙がってきました。とりわけ、①の食材の確保については、早急に取り組む必要があるとの認識から、食材の物流ネットワークを整備し、子ども食堂が身近な場所で食材の提供を受けられるシステムの構築について、重点的に議論を重ねました。

(推進会議要領・推進会議委員名簿→P.22)

●協議概要

推進会議第1回では、昨年度の協議内容に引き続き、子ども食堂の課題や協力策を検討いただき、各委員が自分たちの組織でできる協力策の実施状況等について報告いただきました。

また、地域拠点を設置するにあたり、①地域拠点の認証及び認証に関する要綱の制定、②寄付食材等配送システム(仮)の利用規約の制定及び承諾書の受諾について、ご意見を伺いました。

その中で、「遵守事項は、しっかりと作成、明示して、協定書等を交わしている。最低限のルール制定は必要だと思う」と①②の策定について、賛成いただきました。

推進会議第2回では、引き続き、各委員の協力策の取組状況、その効果や課題、また今後の予定等の情報共有を行いました。そして、推進会議第1回の意見を元に作成した地域拠点設置要綱(案)及び利用規約(案)を提示し、内容について、ご意見を伺いました。

その中で、「利用規約の対象が子ども食堂運営者に限定するものだけでなく、生活困窮者への食の支援をする団体も対象としてほしい」との意見をいただきました。

また、地域拠点の名称を『あいち子ども食堂応援ステーション』としました。

(あいち子ども食堂応援ステーションのイメージ図→P.20, 21)

また、専門部会として、県内3地区で、検討部会を開催し、地域の状況の把握と課題の検討を行いました。検討部会には、各地区の市町村社協職員



推進会議

にも呼びかけ、推進会議で取組の重要課題となっている、物流について検討を行うと共に、支援者としての日ごろの思いや取組状況などを意見交換していただきました。

推進会議	2回開催	検討部会	3回開催
第1回	7月20日(火)	知多地区(東海市)	10月4日(月)
第2回	1月17日(月)	尾張地区(名古屋市東区)	10月19日(火)
		三河地区(刈谷市)	11月9日(火)

(2) 子ども食堂支援者及び開設準備研修会の開催

身近な地域で、子ども食堂をこれから始める方や、子ども食堂を運営する方、地域の福祉活動を支援する関係機関をつなぎ、子ども食堂を地域に定着させ広げていくことを目的に、県内3地区で開催しました(検討部会と同日の開催)。

知多地区(東海市) 令和3年10月4日(月) 参加者:30名	●講 義: あいち子ども食堂ネットワーク 相談役 子どもの居場所づくり推進会議 副委員長 杉崎伊津子 さん ●活動報告: とまと食堂 深谷美子 さん
尾張地区(名古屋市東区) 令和3年10月19日(火) 参加者:35名	●講 義: あいち子ども食堂ネットワーク 相談役 子どもの居場所づくり推進会議 副委員長 杉崎伊津子 さん ●活動報告: 社会福祉法人サン・ビジョン 横井貴史 さん
三河地区(刈谷市) 令和3年11月9日(火) 参加者:48名	●講 義: あいち子ども食堂ネットワーク 相談役 子どもの居場所づくり推進会議 副委員長 杉崎伊津子 さん ●活動報告: 子ども食堂「ほっとライス」 竹上富彦 さん

●子ども食堂支援者及び開設準備研修会 3会場 参加者状況

種別	実践者	準備中	社協	行政	その他	合計
知多(10/4)	5	3	12	3	7	30
尾張(10/19)	8	12	14	1	0	35
三河(11/9)	14	5	15	5	9	48
合計	27	20	41	9	16	113



研修会

～参加者の意見(一例)～

- 相談先が沢山ある事が確認でき、安心して子ども食堂を始める事が出来ると感じた。
- 今の問題事項を再度考え直し、実践出来るようにしたい。頑張らないで頑張る力をもらった気持ちです!
- 企業で社会貢献として取組まれている事例を初めて聞いた。“選べる形”を参加者の主体的な選択との言葉は目からウロコだった。押し付けにならない支援を考えていきたいと思った。

(3) 令和3年度支援対象児童セミナーの開催

子ども食堂運営者が困窮をはじめとした様々な生活課題を抱える子どもたちに気付いたとき、支援機関につなげるため、そうした子どもたちの特徴を学び、どのような相談先があるのかなどの情報を知ってもらうことを目的に開催しました。

令和4年3月2日(水) 参加者:90名	●説 明 ①: 愛知県福祉局福祉部地域福祉課 主事 北村 遼 さん 説 明 ②: 名古屋中央児童相談所 相談課長 忠平 守 さん ●活動報告: なごや子ども応援委員会北ブロック スクールソーシャルワーカー 椿 晃江 さん わいわい子ども食堂 運営委員長 杉崎伊津子 さん ●情報提供: 情報交流会
------------------------	---

●支援対象児童セミナー 参加者状況

子ども食堂	社協	行政	その他	合計
46	30	9	5	90



研修会

～参加者の意見(一例)～

- 子ども食堂のお話で、学校とのつながりを作るプロセスがとても参考になりました。
- 子ども食堂内での関りから関係機関につながった事例を知りたい。
- 今回のように事例で教えていただけるとありがたいです。

(4)「子どもの居場所応援プラザ」の設置・運営

子ども食堂を開設・運営する上での様々な相談に応じるため、令和元年7月から、専門の相談窓口として、「子どもの居場所応援プラザ」を県社協ボランティアセンター内に設置し、随時、相談を受け付けています。

～相談の一例～

- 子ども食堂を始めたい。資金や物資の援助はあるか。情報が欲しい。
- 子ども食堂に食材を寄付したい。どうしたらいいか。
- 子ども食堂や学習支援に関心がある。研修会の予定等教えて欲しい。

●プラザ相談件数

内訳	2021年	2022年
子ども食堂	189	153
学習支援	104	64
両方	23	12
その他	4	11
合計	320	240

設置場所 愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター事務局内
 名古屋市東区白壁一丁目50番地 愛知県社会福祉協議会 2階
 TEL:052-212-5504 FAX:052-212-5503
 E-mail: info@aichivc.jp

(5) 情報発信

●ホームページによる情報発信

愛知県社協ボランティアセンターのホームページ内に子ども食堂の情報を掲載しています。

●2021年版愛知県「子ども食堂マップ」の作成

愛知県の調査を基に、令和3年10月現在の「子ども食堂マップ」を作成しました。このマップでは、県内で活動している子ども食堂のうち、掲載を御承諾いただいた子ども食堂の情報を集めています。随時追加も行っています。 ※本会ボランティアセンターホームページから、ダウンロードできます。➡ <http://aichivc.jp>

●機関紙「ぷらざ通信」の発行

子どもの居場所づくりに関わる活動や情報を広く知ってもらうため、子ども食堂や子どもの学習支援などの取組を紹介する機関紙を、PDFファイル形式で発行しています。

3 今後に向けて

専用のポータルサイトによる食材提供の呼びかけや、県社協が認証する食材提供の地域拠点である「あいち子ども食堂応援ステーション」の整備など、子ども食堂の設置・運営支援の中核的役割を担っていきます。

●2022(令和4)年度の具体的取組

- 「子どもの居場所づくり推進会議」において、子ども食堂における食材の確保と食の物流のネットワークの拡充・定着に向けた取組を推進する。
- 「子どもの居場所応援プラザ」において、子ども食堂を開設・運営する上での様々な相談に応じる。
- 子ども食堂の開設・運営のため、地域における検討会や実践手的な支援者及び開設準備研修会を開催する。
- 食材提供の拠点「あいち子ども食堂応援ステーション」の認定制度を創設する。

- 企業等への食材提供の呼びかけや、子ども食堂へ寄附食材等の情報を発信する専用のポータルサイトを開設する。
- ホームページ、機関誌「ぷらざ通信」等の印刷物により、情報を発信する。

●2021年版子ども食堂マップ●



●ぷらざ通信2022.3月号●

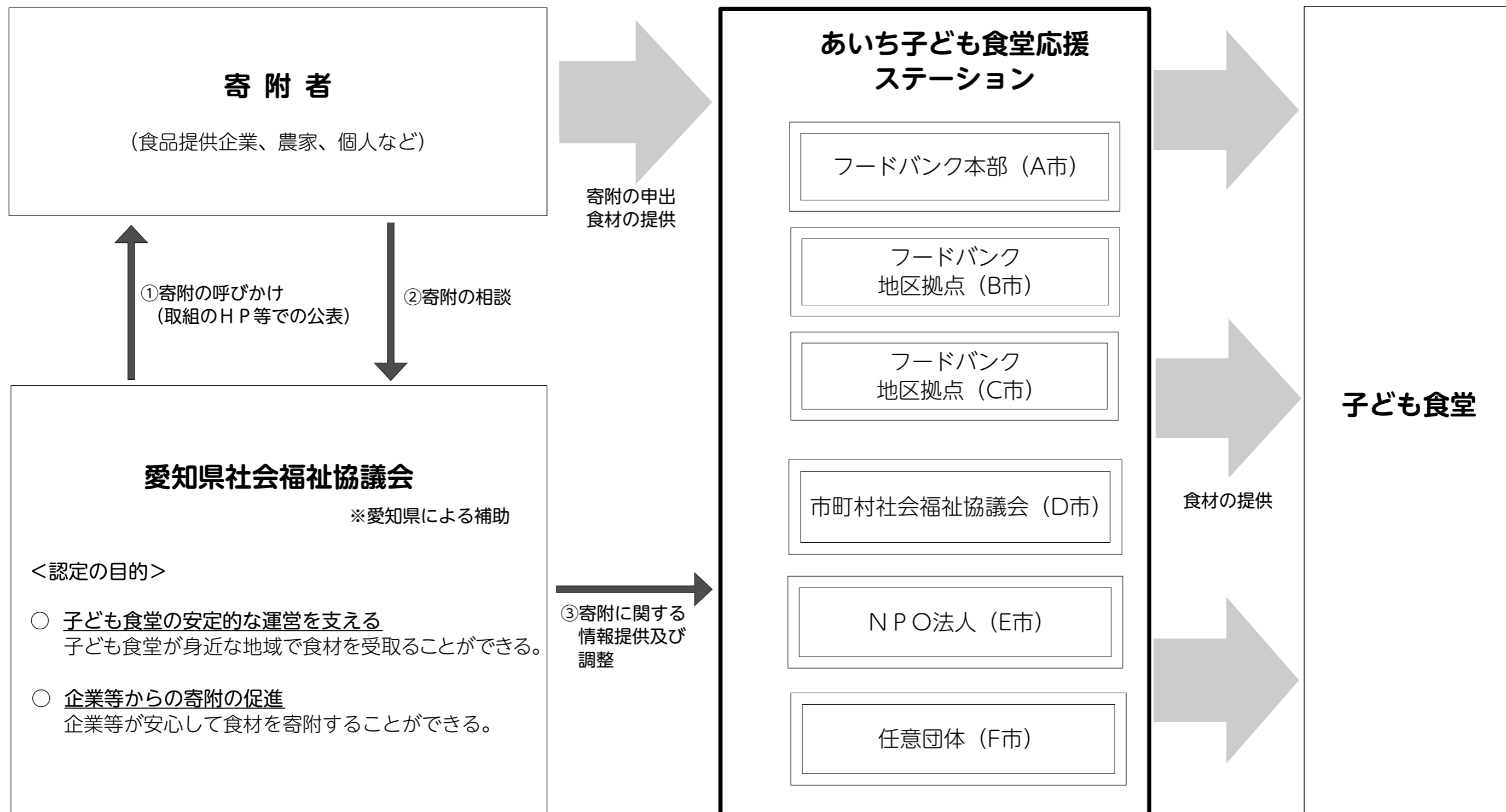


あいち子ども食堂応援ステーション イメージ図

あいち子ども食堂応援ステーション

企業等から提供を受けた食材を一時的に保管し、近隣地域の子ども食堂等に配布する機能を有する
愛知県社会福祉協議会が認定手続きを行う。

各地域の拠点のこと。



子どもの居場所づくり推進会議 要領

1 目的
本会議は、分野や組織の垣根を越えた連携・協働のしくみづくりとして、ネットワーク組織を構築し、子どもの居場所づくりのための具体的方策について検討・実践することを目的とする。

2 協議内容
本会議は、次の事項について協議する。
(1) 子ども食堂の設置拡大・基盤強化に関すること
(2) 子ども食堂の開設・運営についての研修会・交流会等に関すること
(3) 子どもの学習・生活支援に関すること
(4) 各市町村における相談支援体制の構築に関すること
(5) その他、子どもの居場所づくりに関する必要な事項

3 委員の構成
(1) 本会議の委員の定数は、21名以内とする。
(2) 委員は、行政機関、社会福祉協議会、子ども食堂関係団体、民間支援団体、企業等の関係者及び学識経験者をもって構成する。

4 委員長及び副委員長
(1) 本会議には、委員長、副委員長を置き、委員の互選により選出する。
(2) 委員長は、本会議の議長を務める。
(3) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故のあるときは、その職務を代理する。

5 委員の任期
委員の任期は2年とし、欠員が生じた場合の補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 作業部会の設置
本会議には、必要に応じて作業部会を設置することができる。

7 事務局
本会議の事務局は、愛知県社会福祉協議会地域福祉部に置く。

附 則
この要綱は、平成31年4月1日から施行する。
附 則
この要綱は、令和2年9月1日から施行する。

子どもの居場所づくり推進会議 委員名簿

任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

No.	役職	選出区分1	選出区分2	所属	役職名	氏名
1	委員長	学識経験者	大学教員	日本福祉大学 社会福祉学科 (愛知県子どもの貧困対策協議会副会長)	准教授	中村強士
2	副委員長	子ども食堂関係者	あいち子ども食堂 ネットワーク	あいち子ども食堂ネットワーク	相談役	杉崎伊津子
3	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (西尾強)	一宮市社会福祉協議会	課長補佐	林恒治
4	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (東尾強)	日進市社会福祉協議会	主任	伊藤優子
5	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (知多)	武豊町社会福祉協議会	地域福祉課 係長	石野靖
6	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (西三河)	岡崎市社会福祉協議会	福祉活動員 主任	本景子
7	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (東三河)	豊橋市社会福祉協議会	主任	森下安明
8	委員	社会福祉協議会	市町村社協代表 (名古屋)	名古屋市社会福祉協議会	次長	梁野徳一
9	委員	民間支援団体・企業等	NPO(学習支援)	NPO法人アスクネット	リーダー	城取洋二
10	委員	民間支援団体・企業等	NPO(ボランティア)	NPO法人ボラみみより情報局	代表理事	織田元樹
11	委員	民間支援団体・企業等	NPO(ボランティア)	NPO法人フードバンク愛知	理事長	木原賢治
12	委員	民間支援団体・企業等	県内社会福祉法人 (尾張)	社会福祉法人ひまわり福祉会	施設長	成瀬史宣
13	委員	民間支援団体・企業等	県内社会福祉法人 (三河)	社会福祉法人和敬会	理事長	太田一平
14	委員	民間支援団体・企業等	共同募金	愛知県共同募金会	企画調整 課長	榊原英夫
15	委員	民間支援団体・企業等	農業協同組合	JA愛知中央会	地域振興部 部長	村上光男
16	委員	民間支援団体・企業等	生活協同組合	生活協同組合コープあいち	常務理事	眞浦明海
17	委員	民間支援団体・企業等	協力企業(流通業)	株式会社セブンスイレブアンジャパン (日本フランチャイズチェーン協会企業)	東海ゾーン 総務マネージャー	秋元雄一郎
18	委員	民間支援団体・企業等	民生児童委員	愛知県民生児童委員会愛知委員会 活動研修研究部会	元主任児童 委員	東嶋とも子
19	委員	行政機関	市町村代表	豊田市福祉部福祉総合相談課	課長	大内紀哉
20	委員	行政機関	教育委員会	愛知県教育委員会生涯学習課	課長	大道伊津栄
21	委員	行政機関	愛知県	愛知県福祉局福祉部地域福祉課	課長	山本光俊



子どもの居場所

応援プラザ

相談専門窓口

地域における子どもの居場所として、子ども食堂の取組が広がっています。
そこで、子ども食堂を開設・運営するうえでの、様々な相談に応じるため、
専門の窓口を開設しました。

あなたも「子どもの居場所」に関わってみませんか



子ども食堂を
やってみたい。



どんな活動を
しているの？



余った時間で
何かお手伝い
してみたい。

応援プラザ
設置場所

愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター内

名古屋市東区白壁1丁目50番地 愛知県社会福祉会館2階

TEL 052-212-5504 FAX 052-212-5505 Eメール info@aichivc.jp

※本事業は、愛知県の補助を受け、愛知県社会福祉協議会が実施しています。